

(様式2)

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590800015		
法人名	社会福祉法人 ほのぼの小千谷福祉会		
事業所名	グループホームほのぼの(川井ユニット)		
所在地	新潟県小千谷市川井1690番地		
自己評価作成日	令和3年11月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	2021年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◇小規模事業所の利点を活かし、食事は地産地消を基本に化学調味料をできるだけ省き、だし汁(昆布+鰹節)を使用した家庭料理を提供させて頂いています。また、地域の農家の方から季節の野菜もたくさん頂くので、有難く使わせて頂いています。
◇小千谷市より委託を受けて行っている、認知症カフェ(オレンジカフェ)デイホーム事業(地域のお茶の間)で認知症の理解を深めて頂くよう、積極的な交流を図っています。
◇新型コロナウイルス(COVID-19)感染症対策に努めました。2020年12月9日に感染症対策本部準備室を立ち上げ、組織化を図り、緊急時の対応に備えています。また、2021年3月26日に、感染管理特定認定看護師を講師に招き、研修及び施設内の感染症対策の環境整備のアドバイスを受け、施設内で徹底した感染症対策を行っています。
◇ICT化に向けての補助金事業の活用を図り、更なる交流の機会の多様化やサービスの質の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は小千谷市の郊外、信濃川沿いの地域に立地しており、開設当初から地域とのつながりを大切にし、地域に必要な事業を展開してきた。現在ではデイサービスセンターとグループホーム2ユニットを併設する形で事業を行っている。また小千谷市より委託を受けて認知症カフェや地域のお茶の間の事業を実施して地域に貢献している。

この場所で事業を続けてきたことにより地域の方々から受け入れられ、気軽に立ち寄ってもらったり、連日のように季節の野菜等のおすそ分けがあったりとつながりが深い。住民からの提案により、火災等の非常時に近隣住民がすぐに駆けつけられるよう非常ベルが近隣にも聞こえるような音量に設定を変更したこともある。

余暇活動や訪問ボランティアでの地域住民の来訪や地域行事への参加機会も多かったが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い自粛が続いている。地域の様子を職員が利用者に伝えたり、事業所の中の様子を広報誌等を通じて地域に伝えたりと間接的ながら交流を続け、再開の機会をうかがうのと共に、事業所内のICT化を計画しており、多様な交流の手段と機会を確保することで利用者の生活の質の更なる向上を図ろうとしている。

食事にも力を入れており、地域からの季節の野菜等のおすそ分けをはじめ、地域の食材を活かした食事を提供し、食器や盛り付けも含めて五感で食事が楽しめるよう工夫がなされている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今までは、申し送り後に理念の複唱を行っていたが新型コロナウイルス感染症対策で申し送り時間の短縮を図っている為、スタッフの目につく所に貼り出している。また、部署会議時(1回/月)には、理念に沿った対応がされているか、研鑽を行っている。年度末にはユニット全員で確認し次年度の目標に繋げている。	感染防止のため毎日行っていた理念の唱和は現在中止されているが、タイムカード設置場所に理念を掲示しており、職員は出退勤時に確認している。理念の実践については、部署会議時の振り返りとともに年1回事務長の講話に沿って振り返りの機会が設けられている。理念に沿って設定されている毎年の目標についても、利用者を交えながら振り返りと設定の機会が持たれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は、何より大事にしてきたが、新型コロナウイルス感染症対策に伴い、地域行事の中止も相次ぎ、対人を通じての交流が計られなかったが、ご近所からの季節の野菜などの頂き物が毎日のようにあり、食や広報誌を通じての交流に努めさせて頂いている。	感染対策に伴い地域の方々との直接の交流機会は持たなくなっているが、野菜等の頂き物が連日あり、それらの活用の状況をはじめ事業所内の様子については広報誌や運営推進会議等を通じて積極的に発信している。また、地域の様子について職員から利用者に随時伝えるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌「ほのぼの通信」の発行や認知症カフェ「オレンジカフェ」、認知症サポーター養成講座等で情報交換を行い、気軽に困りごとなどの話が出る体制に努めさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、現状をお話し、様々な立場の方からの想いをお聞きし、より良いサービスの向上に生かさせて頂いている。新型コロナウイルス感染症対策に伴い、書面会議や入居者様の参加に制限があり、残念な状況もあった。	感染拡大状況により書面開催となった時期や、事業所以外の会場を借りて開催した時期もあったが、地域内の様々な立場の方々の方がメンバーとなっており、事業所内の様子を伝えていくことや地域の状況を含め広く具体的に意見をいただく場として継続して会議を持てるようにしている。避難訓練の報告に対しては、状況によっては近隣町内の者が駆けつけるようにした方が早く避難対応ができるとの意見があり、事業所の外に向けて警報ベルが鳴るように変更したこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政職員の参加があり、協力関係を築いている。また、今年度より、小千谷市の担当職員によるケアプランの点検が行われるようになりよりサービスの充実が図られている。地域からの相談事にも小千谷市社協に委託されている地域包括につなげて連携を図っている。	運営推進会議に行政職員が出席しており、事業所の状況を伝え、様々な助言を受けている。市の事業に協力したり、市の認知症施策の会議に管理者が委員として出席するなどし、協力関係を築いている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルや身体拘束適正化のための指針に沿って、全ての職員が把握、共通認識し、内部研修、外部研修で理解を含め取り組んでいる。また、毎月行われる管理会議では、身体拘束適正化についての議案に沿って話し合いが行われている。	マニュアルや指針を整備し、内部研修を通じて理解を深めている。身体拘束につながる可能性のあるリスクについては入居時に「リスク説明書」として具体的な内容を記載した書面を作成し説明するとともに、毎月管理会議において状況や対応について確認し、拘束をしない対応ができるようにしている。感染拡大を受け、利用者がストレスをためないように身体的活動を増やす等予防的な活動も働きかけている。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の施設研修を行い、職員一人ひとり振り返り、考える機会を設定している。ヒヤリハット報告については、毎月の会議で細かな状況を分析するとともに、改善に努めチームで共有している。また、管理者がzoomによる研修を受け、スタッフへ伝達講習を行っている。	研修を通じて職員が虐待に対する認識を持つとともに、ヒヤリハット報告を基に虐待につながる芽がないかどうか分析し、注意喚起しながら自らの対応について振り返る機会を設けている。また、職員のストレスマネジメントとしてチェック表の記入、個人面談、研修を実施して虐待を未然に防止する対策をとっている。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学び、現状を把握させてもらっている。また、実際に後見人を行っている事務職員がいるので、大変参考になっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約される際には、契約内容に時間をかけて説明し、ご家族に理解納得して頂いている。また、契約内容の見直しが必要な時は、家族会で協議していただき、承諾後にそれぞれのご家族に説明して同意を頂いている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回開催している家族会総会や面会時など、入居者様の日頃の様子をお伝えし、意見もお聞きしている。また、苦情や直接言いにくい意見や要望は、施設だけでなく、第三者委員、外部機関、家族会会長・副会長に発信できることの説明を行っている。	利用者については日頃の関わりやレクリエーションの中で表出された意見や要望についてはすぐに検討し、返答や対応をしている。家族からは、日頃の連絡を入れた際や面会時、家族会総会において意見や要望を聞いている。家族同士のつながりを大切にしており、意見交換の中から出される要望等も汲み取って運営に活かしている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の管理会議・スタッフ会議・ユニット会議で意見交換を行っている。また、日々の業務の中でも申し送りの時など、話せる環境づくりを行っている。事業本部長又は管理者は年2回、職員との個別面談を行い意見を聞き、より良い体制に努めている。	毎月の会議では事前に職員から取り上げたいテーマを募り、提示した上でディスカッションするようにして意見を出しやすくしている。職員からの意見については必ず受け止め、検討している。職員からの提案を受けて、スーパーのレシートを活用した寄付制度に参加して寄付を受けるようになったり、清掃分担について見直しを図ったりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回、事業本部長による職員個別面談を行い、職員の想いや将来に対する要望について聞き取りを行い、その確認や助言を行っている。また、今の職場でどの様に実力を発揮してもらいたいかなどを伝え、本人との意思確認を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師を招き研修を行い、キャリアアップを図っている。個々の資格所得に向けて、奨励を図り、介護福祉士や社会福祉主事などを所得している。また、新型コロナウイルス感染症対策に伴い、インターネットのズームでの研修も施設内で受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新潟県グループホーム協議会に加入し、情報提供をいただいている。また市内の医療機関や歯科衛生士会で行われる研修に参加しサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族からのお話を傾聴し、センター方式及び包括プログラム、ひもときシートを活用し、ニーズを見つけ出し、入所してからも安心して生活していただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の担当ケアマネジャーやご家族からも情報を得ながら、要望をしっかり把握し信頼される関係づくりに努めている。特に入所された当初は入居後の様子をご家族にこまめにお伝えさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の事前面談においても、それまで使われていたサービス担当者との連携の中からも状況の把握に努めたうえでご本人、ご家族の意見を傾聴しサービス導入時に細やかな視点で考え、チームで情報を共有し、支援の見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のお好きな物、得意とされる事を一体となって共有し、喜びを分かち合えるように努めている。また、気持ちよく過ごしていただける環境づくりに努め、入居者様、職員の優しい関係にも努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に来所出来る、言いにくい事もお話しできる環境づくりに努めている。ご本人、ご家族の想いを大切にし、一緒に感動を共有させていただいている。また、最近は新型コロナウイルス感染症対策に伴い、面会の機会が減少したためご家族との絆が途切れないように、広報やアルバムで写真を届けたり電話での話や窓越し面会に努めた。	面会時を中心に家族の思いを積極的に聞き取り大切にしながら、献立表も家族に送付する等積極的な情報提供にも努め、本人の生活の中での家族の役割を明確に位置づけている。感染拡大により直接関わるのが難しくなっているため、日頃の様子をアルバムにまとめたものや手紙、電話連絡、窓越し面会でつながりを保っている。今後はタブレットを用いたビデオ面会も実施予定である。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々の来所持には、ご本人の喜ばれている様子のお写真などでお伝えさせてもらったり、環境づくりを整えたりして努めている。新型コロナウイルス感染症対策に伴い、DVDで趣味の踊りを踊っておられるところを映して届けたりした。在宅時に利用されていた美容師による訪問カットも行われている。	入居前の事前訪問時に馴染みの関係や場所について聞き取りをした中で、事業所に入居した後も関係継続できることを伝え、可能な限り外出したり、知人等に来訪してもらっており、面会も多く見られた。感染拡大を受けて面会や外出が難しくなったが、一部再開しながら関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活をされる中で、その方のお好きな事を全員で共有できるよう、声掛け、関わりに努めている。また、座席、言葉の使い方にも配慮させて頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性が継続できるよう、ご家族に様子をお伝えさせて頂き、あたたかく見守らせて頂いている。また、退所後も市内の特養施設等に入所される方が多いので、ご家族や入所先特養施設職員との交流があり、フォローや相談に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のお好きなこと、得意なことを尊重しながら生活の一部に加えられるよう、努めている。また、包括的自立支援プログラム、センター方式、ひもときシートを活用し、ユニット会議でチームで検討させて頂いている。	介護計画の作成時や見直しの時には生活の意向や希望を確認しているが、日常の中でも、入浴時等個別に関わる際に問いかけて返ってきた内容を集約して本人の思いを把握するよう努めている。意思の表出が難しい方の場合、本人の能力に合わせて日頃の様子や反応、写真等を提示して選択してもらう等工夫をしながら確認している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に事前面談を行い、ご本人、ご家族からお好きなことや、想いを伺い、関係機関からも情報を得て、共有させて頂いている。	管理者、計画作成者が、入居前の事前面談時に本人、家族から聞き取っている。それまで関わっていた介護支援専門員やサービス事業所からも日頃の様子について情報収集している。なるべく自宅へ伺い、生活の様子が具体的に確認できるようにしている。入居後に把握した新たな情報は介護要約に追記し、職員間で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの想いを尊重し、お好きなこと、得意とされること、健康状態を含めながら、みんなで検討し考え、今の状態を維持できるよう、努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の想いを尊重し、気持ちよく過ごして頂けるよう、介護計画を作成している。職員がご家族も交えながら意見交換を行い、気づきを大切に一体となって、介護計画を作成している。また、3か月に1回のモニタリングでは、ご本人に想いを伺い、介護計画に結びつけられるよう作成している。	介護計画は、3ヶ月ごとのモニタリングと、年1回の見直しが行われている。個別担当が中心となって本人の意向を確認し、ユニット内で情報収集の上、計画作成者が介護計画原案を作成し、家族や、極力本人にも参加してもらい担当者会議を開催して決定している。本人の意向確認や意思決定は会議の場だけではなく、日頃の関わりの中で表出されたものも含め尊重し、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の小さな変化を見逃すことなく、関わらせて頂いている。好みや想いも変化されるのでその都度、言動にも注意し、介護計画の見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今現在は新型コロナウイルスの影響により、多方面とのつながりは、なかなかできないが、さまざまな情報等を職員を通じて、入居者様へお伝えさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響により、地域行事への参加は難しい状況であったが、地域の情報は途絶えることなく、職員からお伝えさせて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人と家族の意向を伺い、かかりつけ医より月1回の診察を受けたり、認知症専門医を定期的に受診されている方もおられる。受診時は、ご家族にも同行して頂いている。状態変化の際は、先生方に相談させて頂き、ご家族との連携を図っている。	入居前からのかかりつけ医を継続することを原則としており、定期的な診察については往診も対応してもらっている。かかりつけ医以外の受診については家族からも協力いただきながら情報提供や付き添い等の対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内は日中は、看護師が在中している。日頃から状態変化に伴い、報告、相談の様子をみている。また、1回/月は、看護師が全入所者に話を伺いながら、バイタル測定を行い、定期往診の医師の記録を参考に様態の把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際には、ご家族、医療関係者と連携を取りながら関わらせて頂いている。また、退院後の関わり等についても相談し、より良い関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族に入所時、緊急時対応について確認、意向をお聞きしている。事業所としてできること、サービス内容をお話し、共有している。また、重度化した場合の関わり方、方向性についても、かかりつけの精神科医からご家族と共に説明を受けて、今後について共有を図っている。	入居時に重度化や終末期の指針に基づき本人、家族に説明の上、その時点での意向を確認している。終末期の対応については、実際に重度化した際にその都度事業所として対応できる範囲を説明しながらその後の方向性について検討し、必要に応じて次の施設の申込みから入所に至るまで支援をしている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、感染症対応、救急対応のマニュアルを整備し、内部研修で実施している。日頃から、小さな変化を見逃さないように努めている。年1回は救急救命士の指導により、心肺蘇生及びAED使用の訓練を全職員で行っている。また、新型コロナウイルス感染症対策に伴い、専門家による感染時の研修を行い対策を図った。	急変や事故発生、救急対応についてはマニュアルが整備され、フローチャートが備えてあり常に確認できるようになっている。定期的に対応についての研修も実施している。新型コロナウイルス感染症感染拡大により、専門家による研修をふまえ、マニュアルや対応の見直しを図り、実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害などの災害マニュアルを整備し見直しを行っている。あらゆる災害について確認し消防署や地域の消防団と連携して訓練を行っている。また水害に備え、毎年市街地までの避難訓練を行っている。	火災、地震、水害を想定した避難訓練を実施している。原子力災害も想定されるため市の訓練に参加した。訓練には消防団や町内会、隣接住民の協力も得ながら実施している。昨年は施設のそばを流れる信濃川の水位が上がり、協力施設に一時的に避難した。備蓄については3日分の食料をはじめとして生活に必要な物品を一式備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保について内部研修を行い、全職員が誇りやプライバシー確保について確認し、配慮している。言動にも注意し関わらせて頂いている。	権利擁護やプライバシーについて内部研修を実施し、場面を再現して検討する等、日頃の対応について振り返る機会を設けている。日頃は「対人援助の心構え」の復唱を通じて、利用者一人ひとりへの関わりを確認できるようにしている。不適切な場面があれば互いに指摘し合える職員間の関係を築きつつ、ユニット会議の中で対応を検討、周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の様子をみさせて頂きながら、想いを伝えやすいように優しく寄り添い、傾聴させて頂いている。職員の思い込みで受け止めることのないよう、チームで関わらせて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人がどのようにされたいのか、どのような想いでされるのか、尊重し、そのことに近くことができるように関わらせて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔後、入浴後、化粧水でお顔を整えたり、洋服のコーディネート等でご本人が楽しみながら自己表現できるよう、関わらせて頂いている。ご本人の好みの色やこだわりも大切にさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を入居者様、職員一体となって、美味しく頂いてもらえるように作って頂いたり、盛り付けの器などにもこだわりをもちながら、楽しい時間をつくらせて頂いている。	食材や調味料等の味だけでなく食事を目からも楽しむことができるよう盛り付けや食器にもこだわりを持っており、季節や場面に応じて利用者とともに工夫して作っている。地域からの食材の提供も多くあり、その都度盛り込んでいる。管理栄養士に献立を確認してもらい栄養バランスに配慮した内容となっている。感染拡大前は外食も頻繁に行っていたが、現在は希望を踏まえてテイクアウトを活用して楽しんでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとに食事量、水分量の確認を行っている。その方の状態に応じて、提供の仕方を考え、こまやかな配慮をしながら、関わらせて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所で口腔ケアを行い、見守り声掛けをしながら、できることはご自分で行って頂き、磨き残しは職員がチェックし、必要に応じて、介助し、清潔保持に努めている。また、必要な方には、歯科医の往診、治療も行われている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の状態を確認させてもらいながら、そっと声掛けし、うまくいかなかったときは、職員で検討し、関わらせて頂いている。トイレでの排泄を基本としおむつの使用は、行わないように努めている。	排泄パターンの把握だけでなく、日中の活動量や食事内容の検討もしながら対応しており、自然な排泄ができるよう努めている。細やかな対応により入居前はおむつ使用していた方も、現在の利用者は全員トイレを利用しての排泄に移行できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人お一人の生活リズム、運動量を確認しながら、食事量のチェック表及び排便チェック表に基づき、水分補給や繊維質の食事の摂取など職員で検討し予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お一人お一人に合わせて声掛けを行い、着替えの準備や好みの洋服を選んで頂いたり、気持ち良く楽しみながら入浴できるように、ゆっくと関わらせて頂いている。時には季節の薬草や入浴剤を使用し楽しんで頂いている。	利用者一人ひとりに合わせた対応を心がけており、入浴の頻度や入浴の時間帯については柔軟に対応している。入浴前の着替えの選択を支援するところから始めており、本人の気持ちに沿った対応ができている。しょうぶ湯等の変り湯も実施しており、以前は温泉スタンドから温泉を運び楽しんでいただいたこともあった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の自然なリズムを乱すことなく、安心して休んでいただけるような環境を整えるようにしている。ご家族に協力していただき、入所前の睡眠の様子もお聞きしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の処方箋に従い、ユニットリーダーが薬の配置を行い、朝・夕の申し送り時に確認を行っている。また、処方されている薬については、それぞれのユニット職員は把握しており、症状の変化に伴い、申し送り時に報告を行っている。また、症状や状態によっては、直ぐに管理者に報告を行い、指示を仰ぐ事になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりが役割を持ち、楽しんで生活して頂けるように生活歴やお好きな趣味を把握し、日常生活に取り入れて活力や気分転換につながるように工夫し関わらせて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今までは地域の行事に参加したり、ご家族との温泉旅行の支援を行ったりお花見や紅葉見物などあらゆる機会を利用して、外出を行っていた。新型コロナウイルス感染症対策に伴い、外出が不可能になり、施設戸外での日光浴や散歩にとどめざるを得なく、残念な昨今である。	地域のとのつながりを大切にしているため、外出も頻繁に行っており、花見や紅葉狩り、初詣等のグループでの外出や墓参り等の個別の外出、家族との旅行や外泊等の支援を積極的に行ってきた。感染拡大に伴い、事業所前の広場での日光浴や散歩程度に現在は留まっている。感染状況を見据えながら、まずは家族との外出や外泊から再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い制を取り入れており、外食やお買い物の際は、職員が同行し、会計時には、ご本人に支払ってもらうなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族の想いを尊重して、電話での交流は盛んに行われている。特に新型コロナウイルス感染症対策に伴い、面会が出来ない間には、多くの電話やお手紙の交流がみられている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から居室に続く階段及び廊下と季節を感じていただけるように、入居者様と職員と一緒に作った壁面装飾がリビング迄続いている。あたたかさ、居心地の良い空間へとつなげるように居室やお手洗いのネームプレートにもこだわりを持ち、工夫している。	共有空間の装飾や環境づくりについては利用者や職員が相談しながら、ともに作品等も作り上げている。日頃の清掃等、利用者の役割としてそれぞれに担ってもらうことで居心地のよさを生み出している。食堂のテーブルやいすの配置については、現在、感染症対策のアドバイスから、以前とは異なる形で配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに腰かける事で入居者様同士が談笑したり、読書をされたり、音楽を聴いたり、周りの様子をみられたり、自由な空間での声掛けを行うなど雰囲気づくりの工夫を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が大切にされている、馴染みの家具や写真を飾ることで、安心して居心地よく過ごしていただけるように努めている。また、趣味を生かした創作品などを飾り、楽しんでいただけるように工夫を行っている。	担当職員が利用者とともに相談しながら家具等の配置や清掃、整理整頓を行っている。馴染みのものが自由に持ち込めることを前提に入居前に持ち物リストを渡して準備してもらっている。仏壇や大正琴を持ち込んで楽しんでいる方もいる。入居後に他の利用者の部屋を見て、あらためて馴染みの品の持ち込みを希望されることもあり、その都度家族と相談しながら持参してもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室プレートに解り易く写真を入れたり、季節感が現れるような壁面装飾をみんなで手作りしたり、トイレは「お手洗い」の表示に柔らかな表現に変えるなど、工夫を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				